

令和4年度 文間小学校後期学校評価(自己評価の結果・成果・課題・改善方法及び学校関係者の意見)

評価目標▶評価目標指数(A+B=80%以上) ○:80%以上 ▲:80%未満 A:とてもそう思う B:だいたいそう思う C:あまり思わない D:思わない

項目	主な具体策	評価の観点	保護者				児童				教職員				成果(○)と課題(▲)・改善方法(☆)	学校関係者評価委員から(課題事項について)
			前期		後期		前期		後期		前期		後期			
			A+B	評価	A+B	評価	A+B	評価	A+B	評価	A+B	評価	A+B	評価		
1【知】 確かな学力の育成 一主体的に学びに向かう子の育成に努めます	○基礎基本の確実な定着 ○主体的に学びに向かう子の育成 【数値目標】 (1)漢字力・計算力テスト合格点(80点)取得者 80% (2)自分で内容を決めた家庭学習に取り組む児童の割合 70% (3)県学力診断のためのテスト国・算の対前年度比 各+1	【基礎基本】 学校は、授業・朝自習・漢字力計算力テスト等で児童の基礎的・基本的な知識・技能の定着に努めている。	95.6%	○	84.5%	○	85.0%	○	86.1%	○	100.0%	○	100.0%	○	○観点1【基礎基本】については、上学年でのタブレット端末の活用が定着し、ドリル学習や調べ学習、ローマ字入力の練習などに計画的に取り組んだ。また、毎月の漢字力や計算力テストでは、約1週間前から範囲を周知し、プリントやドリル学習でのテスト対策に自分で考えながら取り組む児童が増えた。 ○観点2【よく考え自ら学ぶ子】については、校内研修や授業参観・訪問指導によって、授業での「課題提示の工夫」、「活動時間の確保」、「学びの振り返りの視点」を明確にしたことにより、児童がペア・グループで課題を相談し合ったり、自分の考えを相手に伝え合ったりしながら思考力・表現力を向上させることにつながった。また、各自が学習を振り返り、80字程度の短文で繰り返し表現することにより、書くことへの抵抗感が薄れてきた。さらに、ICT支援員のサポートを生かし、教職員が積極的にICT機器を取り入れた個別最適な学びを研修したことにより、授業におけるICT機器の活用率が一段と高まった。 ☆観点3【家庭学習】については、児童が自ら取り組めるように、「一定期間を設けた課題提示」、「タブレット端末を活用した提出方法の工夫」などの改善をする。	・子供たちには、知識だけでなく考える力や学ぶ意欲を高めてほしい。 ・これからの時代は「主体的に学ぶ力」を身に付けさせることが大切なのはわかるが、低学年での自主的な学習は難しいだろうから、今後も中学年以上で取り組めるようにさせてほしい。 ・1人1台のPCが配置され、インターネットの活用などで何でも調べやすい学習環境であるが、学校だけでなく家庭での使用の仕方などにも連携を図る大変さが増しているように思う。
		【よく考え自ら学ぶ子】 学校は、児童の主体的な学びを引き出す授業づくり(チーム指導・書く指導・ICT機器の活用・学習教材の工夫等)をしている。	88.1%	○	83.7%	○	80.3%	○	82.7%	○	87.5%	○	100.0%	○		
		【家庭学習】 学校は、内容を自分で決めた家庭学習に取り組むように指導したり励ましたりしている。	64.2%	▲	45.8%	▲	72.8%	▲	69.3%	▲	77.8%	▲	41.7%	▲		
2【徳】 豊かな心の育成 一仲良く助け合い思いやりのある子の育成に努めます	○心の居場所となるいじめのない学級づくりの推進 ○一人一人がよさと思いを発揮できる特色ある教育活動の充実 【数値目標】 (1)学校が楽しい児童 85% (2)体験活動・交流活動の満足度 90%	【いじめのない学級づくり】 学校は、児童が安心して良好な人間関係で学校生活を送ることができるように生徒指導の充実を努めている。	83.6%	○	73.7%	▲	84.4%	○	87.8%	○	100.0%	○	100.0%	○	・いじめ対策が日本中で問題になっているが、大人(保護者や教師など)が介入しすぎていないか。もっと子供が自力解決する力を高めていく対応をすべきではないか。 ・コロナ禍の対応の中で働き方改革への対応も学校で工夫され、PTA役員も協力してきた取組が子供たちの活動や評価にも表れている。 ・これまで学校に頼ってきた子供たちの教育をさらに地域や保護者が連携しながら責任を果たしていくことが大切だろう。	
		【学校が楽しい子】 学校は、児童が心の居場所としての学校が楽しいと実感できるようにしている。	80.6%	○	72.1%	▲	79.8%	▲	82.6%	○	100.0%	○	100.0%	○		
		【体験・交流活動】 学校は、児童が体験・交流活動、学校行事において一人一人のよさと思いを発揮して取組み満足感をもてるようにしている。	83.6%	○	86.0%	○	88.4%	○	90.2%	○	100.0%	○	100.0%	○		
3【体】 健やかな体の育成 一明るく健康でがんばる子の育成に努めます	○健康な生活習慣の徹底 ○体力の向上と健康教育の推進 ○安全教育の推進 【数値目標】 (1)危機回避の行動がとれる児童 80% (2)体育及び体育的行事の満足度の割合 70%	【健康な生活習慣】 学校は、健康な生活習慣・食習慣・病気の予防等の健康教育の指導をしている。	97.0%	○	91.5%	○	89.0%	○	84.9%	○	100.0%	○	100.0%	○	○観点7【健康な生活習慣】については、学校栄養教諭による食育の学習を計画的に全学級で実施し、給食時のマナーの向上や給食を完食する児童が増えた。さらに、養護教諭による3年生以上の学年での保健学習の実施、学校薬剤師や誕生学アドバイザーの参加による専門的な知識と視点による学習の実施、保健だよりの配信によって家庭への注意喚起による健康教育の充実化を図った。また、オンラインによる児童集会が定着し、感染症対策への取組を継続し、校内での感染拡大を防止できた。 ○観点8【体力の向上】については、業間休みに計画的な持久走練習に児童が意欲や目標を持って取り組める工夫をした。また、体育の授業以外でも活用できるようになわとびボードを8台設置し、児童の活動意欲を高めた。さらに、「なかよし班活動」で大縄(8の字)とびを異学年で行い、意欲的に体力を高めることができた。 ○観点9【危機回避】については、12月に統合によるスクールバス通学の安全対策等を目的とした県の専門家の助言を得ながら、プロスタントマンを招聘した「スクエアドストリート交通安全教室」を実施し、安全な行動への知識と理解を高めることができた。また、2月に取手警察署の協力により不審者対策の避難訓練を実施し、緊急時の命の守り方等について学んだ。今後も児童の危機回避能力を高める一助として、けが等の手当時に状況を聴き取りながら、同じことを繰り返さぬ判断力を身に付けさせていく。	
		【体力の向上】 学校は、運動の楽しさや達成感を味わえる体育及び体育的行事により体力の向上に努めている。	98.5%	○	91.4%	○	88.4%	○	92.4%	○	100.0%	○	100.0%	○		
		【危機回避】 学校は、安全(生活・交通・災害)について指導し、児童が危機回避の行動が取れるように努めている。	92.5%	○	89.2%	○	96.0%	○	96.5%	○	100.0%	○	100.0%	○		
4 信頼と協働で結ばれた地域とともにある学校づくり	○各種たより・学校HPによる学校情報の積極的発信 ○保護者・地域と連携した教育活動の実施 ○保護者・地域との連携による登下校の安全確保 【数値目標】 (1)学校HPの授業日の更新率 90% (2)教職員の超過勤務時間の年間平均 月45時間以内	【情報発信】 学校は、各種たより等を発行・回覧、HP・メールを配信して教育活動の情報を提供している。	92.5%	○	90.7%	○	/	/	/	/	100.0%	○	100.0%	○	・学校からの情報発信の工夫によって、前回よりもアンケート回答率が大きく上昇したことは成果と考える。 ・次年度は文間小の児童はほとんどがバス通学になるので、自宅から自分の力で歩いて登校できた児童は体力も心も高められたはずである。登下校中に雨に降られたり、通学途中に近所の方と触れ合ったりし、学ぶことがあったと思われる。 ・車の送迎や、今後のバスでの登下校で、事故等の増加が心配される。学校や教育委員会と共に保護者、ボランティア団体の連携による安全対策が重要である。	
		【連携・協働】 学校は、保護者や地域住民と連携・協働して学校教育活動に取り組んでいる。	85.1%	○	79.1%	▲	/	/	/	/	100.0%	○	100.0%	○		
		【登下校の安全確保】 学校は、保護者や地域住民とともに登下校の安全確保に取り組んでいる。	85.1%	○	71.3%	▲	/	/	/	/	70.0%	▲	75.0%	▲		

保護者回答率70.1%(129/184人) 内訳:1年生(88.9%・24/27人) 2年生(69.2%・18/26人) 3年生(76.7%・23/30人) 4年生(69.2%・27/39人) 5年生(60.0%・15/25人) 6年生(67.6%・25/37人)